

ほろにかが

令和2年10月15日
全国卸売酒販組合中央会

「コロナ禍にあってのお酒の消費」

静岡県卸酒販組合
理事長 戸塚 敦雄

新型コロナウイルス感染症が日本で発生して感染が拡大し始めたのは今年の3月下旬頃からですが、我々酒類業界に大きな影響を及ぼしたのは4月以降でしょう。感染拡大の大きな山は4月に1回、その後一時治まったかに思いましたが、7月から8月にかけてさらに大きな感染者数が発生しました。

4月の緊急事態宣言以降は、飲食業の休業要請や営業時間制限、「ステイホーム」「在宅勤務」「巣ごもり需要」の影響で業務用市場は概ね4月は90%減、5月は80%減、6月は50%減と推移しましたが、8月には新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に伴い再び60%減に悪化しました。9月には東京都の飲食業営業時間制限も解除され、40%減までには回復してきました。一方の家庭用需要は他の食品程ではありませんが、堅調でスーパーマーケットやドラッグストア等々の売上は増加傾向にあります。

しかし、酒類の特性を考えると、仕事にせよプライベートの生活にせよ活発に活動をして「喜怒哀楽」を感じながら、多様な生活シーンでお酒と飲食を楽しめれば、多様な酒類が吞まれていくのでしょうか、「ソーシャルディスタンスを保ち」「ステイホーム」の中で飲まれるお酒では、低価格のビールテイスト缶製品やRTD製品、日本酒パック製品、大容量家庭用焼酎・ウイスキー等が伸長しても多様な付加価値の高い商品にまで需要が拡大して行きそうもありません。日本酒の特定名称酒やビール等の需要は減少が続いています。

政府や行政はコロナ禍にあって、様々な援助策を用意してくれています。「雇用調整助成金」「持続化給付金」「家賃支援給付金」「自治体別の休業協力金」

等々ですが、これらによって助けられている企業や個人も沢山あると思われ
ます。さらに、「GoTo トラベルキャンペーン」や「飲食店応援キャンペーン」等も
始まってきました。すべては、今後のコロナ感染症の拡大状況にかかってくる
とは思いますが、現在のような閉塞感に覆われたライフスタイルの中では、楽
しい・美味しい・豊かな飲酒シーンが想像しにくいような気がします。

全ての企業活動と個人のライフスタイルが、早く積極的で活発なものに変化
して貰いたいものです。日本の感染者数が少ないのは、「新しい生活様式」が比
較的守られていて、それは日本社会にある「同調圧力」がプラスに機能してい
るためだとも言われています。日本人の真面目な特性によるものだとも言われ
ています。しかしそのことが、企業活動や個人のライフスタイルを制限して閉
塞感を生み出しているとしたら残念なことです。

我々の扱っているお酒は本来、企業活動と個人のライフスタイルをより豊か
に、活性化する素晴らしい特性を持っているはずで、業務用市場も家庭用市
場も少しでも早く回復させて各企業の業績を立て直されることを祈念致します。